

蒐集から「都市の写真史」へ

—「上田貞治郎写真コレクション」の写真史料学—

緒川 直人

従来の歴史学や史料学は、映像史料論に関心を向けてこなかった。本稿は、戦前大阪の写真材料商、上田貞治郎が蒐集した一七七七点の古写真群で構成される「上田貞治郎写真コレクション」を、日本写真史学、史料学、日本近代史学の学際的な地平で事例研究し、同コレクションの多様な伝来過程や史料構造を説明する作業から、「題簽史料論」「アルバム史料論」という固有の方法論を設計することで、「写真史料学」という新ジャンルを構想した。

題簽史料論は、撮影・販売写真師が確定された古写真の題簽指標を手掛りに、素姓不詳であった写真群の出処や関連情報を復元する方法論である。同コレクションに伝来した古写真群「写真販売商 和田猶松撮影販売写真群」を素材に、題簽史料論の設計を試みた結果、猶松販売写真群に六種類の題簽形式を析出でき、同コレクション等から猶松販売写真を識別する指標開発に成功した。題簽史料論の副次的成果として、写真販売商和田猶松の品揃え形成、使用印画紙の材質、

営業方針など、日本写真史学では未解明の明治初期写真販売商の営業形態の一端も解明された。

同コレクションの伝存の現状は、貞治郎が編制した二十巻のアルバム形態である。伝存形態に注目し、貞治郎のアルバム編制の検証を通じて「アルバム史料論」を設計した。貞治郎は、明治期の都市大阪の風景古写真と、それらと同一風景地の昭和二〜三年撮影の「現代大阪写真群」を、アルバム同一ページに定点観測写真的にレイアウトする。都市大阪の場所の時・空間的な史の変貌を、三〇〜五〇年の時間幅で一望のもとに可視化するアルバムデザインを案出した。それは、近代大阪都市史の *Visual-text* としての「都市の写真史」の誕生と理解できる。

都市空間の変貌を可視化する、このアルバム編制のテクノロジーを「今昔比較対位法」と命名し、それが導入されたアルバムの媒体形式を「今昔比較対位法アルバム」と定義した。今昔比較対位法は、アルバムという視覚媒体を、*Visual-text* 「都市の写真史」に造形するための「都市―歴史記述のテクノロジー」なのである。

以上の知見から、貞治郎による古写真蒐集からアルバム編制にいたる一連の今昔比較対位法のプロジェクトを、戦前期における「新しい視覚の歴史学」の誕生と解釈した。そして、アルバムという視覚媒体を都市―歴史記述の史料や方法論と

して使いこなそうとする貞治郎の創意工夫こそ、戦前日本における「アルバム史料論」の誕生であった。文書史料を偏重してきた戦前期以来の古文書学とは異なる「映像史料学」の原像が、一九七〇年代の史料学の時代に先駆けて一九二〇年代に萌芽していた。

写真史学や人文地理学の学説は、今昔比較対位的な定点観測の嚆矢を、一九七〇年代末のアメリカ西部「再撮影プロジェクト」に想定してきた。しかし、今昔比較対位法アルバムの成立は、その起源を一九二〇年代末大阪の上田貞治郎に求める新解釈を可能にする点で、定説を覆す「事件」であった。

「題簽史料論」と「アルバム史料論」を骨子とする写真史料学の構想を通じて、従来の史料学研究とは異なる史料学の新たな可能態を提案し、従来の学説を更新する知見を提示した。